

<白金標準、下値模索で新甫4月限の4500円台を狙う・・・>



(出所：オアシス)

白金標準先物は2015年以来の4957円を試したが、NY白金の1000ドルの壁を意識した値動きに抑えられ、週末のイスラエルとイランの緊張の高まりを受けても金価格に追随する事無く、4621円まで下値を模索している。また米国経済指標はインフレの高まりを示唆し、エネルギー価格の上昇と合わせて景気商品の足を引っ張る値動きを見せている。

また今週は米国ハイテク企業の決算が発表されるが、アナリスト予想は低迷する予想であり、株価の下落も予想されるなど下値追いの材料には事欠かない状況である。

しかし南アフリカのプラチナ鉱山であるシバニースチールウォーターは、白金族金属(PGM)価格の低迷により収益性を回復できなかった後、マリカナの4ベルトシャフトを閉鎖し、855人の雇用を削減すると発表するなど、コスト割れの状況である事から生産量の低下は否めないと思え、需給では950ドル以下では下げ渋る展開に思える。特に5月はJM社、WPICのプラチナ需給報告が控えており、経済情勢で下値を模索した後は、需給に立ち返り割安感から巻き戻しの値動きへ移行すると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルも切り下げている。RCIは短期が下げ続け、長期は+86%を維持するなど強気を維持した状態である。そのため目先は10日移動平均線に向けた戻りには注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 4 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>